

1. 岐阜市鶺鴒屋地区調査

岩本 悠梨

1. 調査概要

令和3年度より、岐阜県岐阜市鶺鴒屋地区にて鶺鴒漁と携わる人や地域の空間利用の分析、小瀬の鶺鴒漁との比較による鶺鴒匠の生活空間としての鶺鴒屋地区を明らかにし、価値を高めるという目的で調査をおこなっている。令和4年（2022）の調査は5月29日～30日と7月15日～16日の2度、計4日間にわたり実施された。なお、令和5年2月には、いまだ調査がおこなわれていない地区の自治会長へ聞き取り調査を実施する予定である。

2. 調査者参加者

- ・5月29日～30日：上杉和央（教員）、鈴木更紗（神戸市立博物館学芸員、博士前期課程2回生）、前田愛佳（4回生）、岩本悠梨（3回生）、鳥本浩平、高木晃、河合一希（岐阜市文化財保護課）
- ・7月15日～16日：鈴木更紗、馬籠翔（博士前期課程1回生）、前田愛佳、岩本悠梨、鳥本浩平、高木晃

3. 各調査の内容

1度目の5月29日～30日は鶺鴒屋地区の自治会長に、①自治会の人数、役職、任期、選出方法、②長良川鶺鴒と自治会の関係、③各地区の「アキバサン」の祠の位置、左義長の場所の確認、④年間を通した行事、祭礼の内容（左義長、秋葉山、岐阜祭り、川祭り）などについて、聞き取り調査をおこなった。

鶺鴒屋地区の自治会は全部で8地区あり、その内6地区の詳細を聞くことができた。「アキバサン」と呼ばれる秋葉信仰の祭礼が年3回あり、自治会員が各町の祠を飾り付ける。また4月の「岐阜祭り」や7月の「川祭り」では神社にのぼりを立てに行くなど、地域の信仰と川に関係する祭礼があり、自治会ごとに準備がおこなわれる。

2度目の7月15日～16日は「川祭り」の準備（15日）と開催当日（16日）の見学、祭礼関係者や地域住民への聞き取り調査の他、鶺鴒屋地区の民家の土台に利用される石積分布と長良天神神社境内の石柱と燈籠の銘文調査をおこなった。

「川祭り」は鶺鴒屋地区神明神社にて7月16日に実施される川開きの行事であり、鶺鴒匠がアユを献上する。例年、数人の船頭たちが子供たちの乗るちょうちん船を前日から準備するが、令和2、3年は新型コロナウイルス感染拡大のため開催されなかった。調査時点の令和4年は天候不順ということもあり、例年より準備は簡略化され、ちょうちん船は出航しなかった。

編集後記

フィールド集報は、刊行当初より Adobe 社の InDesign を利用して組版作業を手作りでおこなっている。InDesign の取り扱いは、歴史学科文化遺産学コースのうち、考古・建築・地理の実習メニューに含まれ、本書の一部については、そうした実習のなかで学生が組んだものとなっている。

今年度のフィールド調査においても、各地で多くの方からのご理解とご協力を賜った。ここに改めてお礼申し上げる。歴史や文化遺産にかかる調査は一人では決して成しえないということを、今後も常に意識するように努めたい。(う)

京都府立大学文学部歴史学科

フィールド調査集報 第9号

編集・発行 京都府立大学文学部歴史学科

〒606-8522 京都市左京区下鴨半木町 1-5

発行日 2023年3月30日

印刷 株式会社 北斗プリント社

〒606-8540 京都市左京区下鴨高木町 38-2
